

〔科目名〕 経営学基礎論 b				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 必修	
〔担当者〕 矢口 義教			〔オフィス・アワー〕 時間:開講時に指示する 場所:研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 経営学は、企業(組織)を研究する学問であり、大きく経営管理論と企業論に大別される。経営管理論は、経営戦略、マーケティング、経営組織などの企業の営利性に関することを取り扱う。これに対して、企業論は、環境経営、企業倫理、コーポレート・ガバナンス(企業統治)などの社会性に関する課題に取り組むものである。 経営学基礎論 b では、このような経営管理論と企業論について様々な代表的な学説を検討していく。例えば、テイラーの科学的管理法、バーナードの経営組織論、ポーターの CSV(共通価値創造)などであるが、その際には、当時の時代背景に加えて今日的な特徴・意義についても言及する。 また、このような学説的な検討だけでなく、そもそも企業とは何なのか、そのイメージを掴めるようにもする。その際には、企業形態や、企業を取り囲む経済・社会情勢についても言及する。さらに、近年では、環境問題や社会問題を含めて持続可能性(サステナビリティ)が狙上に上っており、課題解決に貢献することが求められている。これについて、CSR(企業の社会的責任)経営や SDGs(持続可能な開発)経営などからも迫っていく。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 多少の誤解を恐れず言えば、経済学は「国の経営」であるのに対して、経営学は「企業の経営」である。国の財政・金融・景気などの側面から、どのように運営していくべきなのか。それが、経済学の理論(モデル)に表れており、具体的な政策が立案される。近年では、経済学においてもマイクロ経済学や組織経済学など企業を扱うようになっているが、金銭やコストに基づく定量的な考察からのモデル構築が意図されている。 一方、企業経営は、「組織は人なり」という言葉からも分かる通り、人間関係およびその構成体である組織的な営みから生じるものである。つまり、定性的かつ動的な(ダイナミック)な観点から、企業経営を理解する必要があるのである。経営学基礎論 b では、このような視点を提供することで、経済学を学ぶ学生たちにバランスのある視点から、企業を定量と定性の側面から正確な理解をできるようにする。つまり、数値だけで企業・経済活動を見るだけでは、これらの本質には十分に迫れないので、よりミクロの視点で「現場」で生じる様々な事象も考慮に入れて経済政策を論じられるようになる。これが経営学基礎論 b を学ぶ意義である。							
〔科目の到達目標〕 (1) 経営学説が、実際の企業経営に反映されていることを理解できるようになる。 (2) 企業と経済の密接な関係性を踏まえて、定性的な側面から企業行動を捉えることができるようになる。 (3) 現在の企業経営をめぐって、客観的な立場から意見・考え、さらには批判を述べられるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○		○	○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 今回より初めて授業を担当するので、まだ授業評価を受けていません。今後の授業評価を踏まえて、コメント、改善と工夫の対応をするようにします。							
〔教科書〕 佐久間信夫・中村公一・石井泰幸・山田雅俊編著(2025)『新・経営学者の名言』創成社(ISBN:978-4-7944-2644-4)							

<p><b>〔指定図書〕</b> 佐久間信夫・井上善博・矢口義教編著(2024)『入門企業論』法律文化社(ISBN:978-4-589-04297-2)</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> 矢口義教(2023)『地域を支え、地域を守る責任経営—CSR・SDGs 時代の中小企業経営と事業承継—』創成社(ISBN:978-4-7944-2612-3)</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> とくに指定はしないが、これと経営学科の発展型の科目(現代企業論(1年次)、経営倫理学(3年次)など)も、機会があれば履修して、経営学に対する理解を深めてほしい。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 成績評価については、①毎回の授業後に実施する理解確認小レポート(最大30点:1点×30回)、②中間で課す課題レポート(最大30点)、③前期末に実施する期末テスト(最大40点)、さらには④受講態度も含めて総合的に判断する。 ①は記述式で行うが、その評価基準は、授業の内容をおおよそ理解できているかどうかで判断する。 ②の評価基準は、構成(序⇒本論⇒結論)の適切性(5点)、考察・分析の視点(10点)、結論における意見の鋭さ(10点)、文章表現(5点)に基づいている。 ③は、前半部分の穴埋め式(20点)、後半部分の論述(20点)で評価する。前半部分は20問程度の穴埋めを各1点とするが、重要なキーワードを出題するので正確な解答が望まれる。後半部分では、論述テーマについて、背景と特徴の正確な記述(8点)、結論における意見や考え(7点)、文章量(5点)に基づいて評価する。 ④について、授業中の私語、内職、居眠りなどが改善しない場合には欠席扱いにすることもある。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 私は、授業に対して情熱をもち誠実に取り組んでいく。また、私の授業に向き合う姿勢は「誰一人取り残さない」ことを心がけており、全員が経営学に関する知識と単位を修得することで、皆さんの成長につながる手伝いをしたい。何らかの個人的な事情を抱える人も多いと思うので、臆さずに相談してほしい。皆さんと相談しながら、解決に取り組みたい。大学の授業は皆さんの成長につながり、成長は皆さんの幸福につながるものである。授業については、すべてが「自分のため」と認識し積極的に取り組んでいただけることを切に願っている。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:授業概要、成績評価・注意事項、および「経営学とは何か」に関する講義 教科書・指定図書:該当なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の対象となる企業・組織とは何か 内 容:企業の大まかなイメージと資本主義社会における存在意義と役割 教科書・指定図書:該当なし</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の対象となる企業・組織とは何か 内 容:企業形態:経営学の主たる対象である企業(株式会社)も含めた主要な形態 教科書・指定図書:該当なし</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の体系と科学的管理法 内 容:経営学説の全体像の説明、ならびにテイラーによる科学的管理法の役割と意義 教科書・指定図書:教科書 p.9～p.16</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):フォードの経営とベルト・コンベア生産方式</p> <p>内 容:科学的管理法からの系譜となるフォードのベルト・コンベア生産方式(近代生産方式)</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.118～p.125</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):GMの台頭</p> <p>内 容:GMの販売戦略を通じた「ゆたかな社会」におけるマーケティングの重要性</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.109～p.117</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):人間関係論</p> <p>内 容:科学的管理法の有効性検証から、人間関係が労働の生産性を規定するという発見へ</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.32～p.37</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動科学の導入とその後の展開</p> <p>内 容:人間関係論を補足する欲求階層設やグループダイナミクスの成果の取り入れ</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.51～p.55</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):人的資源管理論①リーダーシップ</p> <p>内 容:リッカートを始めとして、生産性に影響を及ぼすリーダーシップ論の初期の展開</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.38～p.44</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):人的資源管理論②モチベーション</p> <p>内 容:マグレガーやアージリスらの理論から、個人のモチベーションに与える影響の考察</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.45～p.50、p.70～p.75、p.76～p.82</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):管理過程論</p> <p>内 容:組織の構造と形態の基本、ファヨールらの管理過程論の特徴と、その現代的な意義</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.1～p.8</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):組織論①人間の意思決定に注目した理論</p> <p>内 容:構成員の思考や意思決定に着目したバーナードやサイモンらによる近代組織論</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.23～p.31、p.61～p.69</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):組織論②組織の環境適応</p> <p>内 容:コンティンジェンシー理論:バーンズ=スターカーやウッドワードの環境適応と組織変容</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.56～p.60</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論①初期の戦略論</p> <p>内 容:初期の代表的理論アンソフとチャンドラーの学説を通じた経営戦略の基本と仕組み</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.189～p.202</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論②ポジショニング・アプローチ</p> <p>内 容:ポーターの学説:企業の市場における位置取り(ポジショニング)と競争優位</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.222～p.229</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論③リソースベースド・ビュー(RBV)</p> <p>内 容:内部化の理論を説いたウィリアムソンと、希少性に着目するバーニーの学説検討</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.203～p.210</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論④RBV</p> <p>内 容:コア・コンピタンスと、知識の獲得・共有を強みに捉えるナレッジ・マネジメント</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.211～p.215、p.236～p.241</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論⑤イノベーション</p> <p>内 容:企業が成長を遂げるためのイノベーション(革新)の類型・事例および制約要因</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.126～p.130、p.230～p.235</p>

第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略論⑥分析方法 SWOT、TOWS</p> <p>内 容:PPM、SWOT、TOWS(クロス SWOT)など経営戦略の分析ツールの理解と活用</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):競争優位に貢献するマーケティング</p> <p>内 容:マーケティングの基本 4P(MM)の全体像の理解、および各企業事例での実習</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):STP(MM)、ロングテール、ブランドなど</p> <p>内 容:STP、ロングテール、ブランドなどから多面的なマーケティング活動への理解促進</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会的制度としての企業</p> <p>内 容:大企業体制の到来、それにとまなう所有と経営の分離、および経営者支配の概念</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.131～p.137、p.138～p.141</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の社会的責任(CSR)とアメリカにおける背景</p> <p>内 容:企業と専門経営者の社会的責任に関する歴史的背景と現代への系譜・展開</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の社会的責任に関する理論</p> <p>内 容:CSR 理論の中核を成すピラミッド・モデルとステークホルダー(利害関係者)理論・概念</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.177～p.182</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):トリプル・ボトム・ラインとサステナビリティ</p> <p>内 容:経済・社会・環境の両立から、持続的な発展を可能にする CSR の役割と意義</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略と CSR の融合</p> <p>内 容:明示的 CSR を前提とする経営戦略やマーケティングへの CSR の取り込み</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):CSR を促進する経営者のリーダーシップ</p> <p>内 容:企業の CSR を牽引する経営者のインテグリティ(誠実性)とリーダーシップ実践</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):CSR を促進する要因</p> <p>内 容:内部の CSR 促進要因である制度化、および外部促進要因の ESG や SDGs の潮流</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の目的:パーパス経営</p> <p>内 容:経営理念やパーパス(目的)など、企業の中核的な目的や価値観の認識とレゾナードール</p> <p>教科書・指定図書:教科書 p.183～p.188</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営理念に基づく事情展開</p> <p>内 容:経営理念と CSR 行動:パナソニックとジョンソン・エンド・ジョンソンの危機対応事例</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか):改めて経営学を学ぶ意義の再考</p> <p>内 容:経営学の様々な理論や背景(環境)を踏まえて、企業経営と経営学を学ぶ意義の再考</p> <p>教科書・指定図書:該当なし</p>
試験	<p>筆記試験の実施。授業配布資料およびテキストの持ち込み可(ただし自筆プリントのみ)。</p>